学校だより
三年先の稽古
発行：校長　益子　朗

責任持って選ぼう！
生徒会役員選挙

11月26日(木)、次代の大信中学校のリーダーを選ぶ、生徒会役員選挙の立会演説会と投票が行われました。

候補者と応援者は毎朝、玄関前に立って支持を呼びかけてきました。そして26日(木)の立会演説会では、応援者と共にどのような生徒会をつくっていきたいか、全校生徒に政見を述べ、その後、投票が行われました。

今回の選挙に、勇気を持って立候補した皆さんありがとう。当選者はいよいよリーダーとしての自覚を持って任務を果たしましょう。

全校生は自分たちが選んだリーダーを、しっかり支えましょう。

学校教育目標（２）
たくましく健やかな生徒
いのちを尊ぶ温かな生徒
しん　真実と夢を追求する生徒

校長のつぶやき（歴史秘話・ヒストリア）

歴史の嫌いな方にはお申しわけありませんが、白河が激戦地だった戊辰戦争がらみでもう一話。戊辰戦争（1868年～69年）の直前、アメリカでも国を二分する、南北戦争がありました。

アメリカはイギリスから独立したものの、それはフランスやスペインなど、イギリスと敵対する多くの大国が、当時まだ弱小国のアメリカを支援したからです。独立後、アメリカは再びイギリスと戦争し、イギリス艦隊の砲撃で大統領官邸を黒焦げにされ、あっさり降伏。官邸を新築するお金がないので、白いペンキで塗ったのが「ホワイトハウス」です。

その後どう国を発展させるかをめぐって南部と北部が激しく対立し、アメリカ史上最大の死者（太平洋戦争の死者よりも多い）を出す内戦となりました（この戦争で使われた大量の銃が日本に輸出され、戊辰戦争で使われました）。

結果として北部が勝利し、その後アメリカは分裂を免れ、大きく発展します。イギリスなど従来のヨーロッパ諸国は、工業は発展していたものの、食糧や工業原料が不足しており、それを手に入れるために各地を侵略し、植民地支配をしたのですが、アメリカは、世界初の、農業も工業も発展した豊かな国になったのです。

【アメリカ南北戦争】

アメリカ合衆国：英国から独立（１７７６年）

⇕

実態：軍事力・経済力‥英国にかなわない

南北の対立

北部の州	**南部**の州
工業化を図る ＝ **英国に対抗** 真に「独立」するには英国に頼るのではなく自国の工業を発展させるべき（そのためには原料は北部に回し、北部の製品を買ってほしい。黒人奴隷は不要）。	**農業中心に栄える** ＝ **英国に原料を輸出** 世界一の工業国・英国に綿花などの工業原料を輸出すれば利益が得られる（英国との関係を維持するためには、英国製品を買い続ける。労働力として黒人奴隷が必要）。
統一の維持を主張	米国からの独立を主張

南北戦争（１８６１～６５年）

北部の勝利
（分裂を回避する）

世界に類のない、農業も工業も両方とも発展した国に成長し、やがて英国に代わって、世界の中心となる超大国に発展する。

戦争中、北部のリンカーン大統領が激戦地ゲティスバーグで述べた、**「人民の、人民による、人民のための政治を滅ぼしてはならない」**はあまりにも有名ですが、彼が偉大な大統領と言われるのは、アメリカの分裂の危機を救ったからです。もし分裂していたら北部はイギリスの工業力に勝てず、南部はイギリス頼りの農業国で終わっていたでしょう。

しかしその後、南部の諸州は、様々な面で差別を受けたそうです。例えば南部の中心地・リッチモンドにはしばらく鉄道が通されませんでした（実は、会津若松もそうでした）。またリンカーン大統領は、その後南部の男に暗殺されています。その差別や憎しみが消えるのには、かなり時間を要したそうです。南北戦争による分断や犠牲を乗り越えて発展したアメリカが、再び現在の危機を乗り越えてくれることを願いたいものです。

白河は、戊辰戦争の後、敵味方の別なく犠牲者を供養した「仁の心」の街です。大信中学校生徒会も、「あったか大信中」の心を忘れずに、『生徒の、生徒による、生徒のための大信中』を築いていきましょう。